

厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）
分担研究報告書

がん患者に対する包括的支援システムの開発

研究分担者 清水研 国立がん研究センター中央病院
精神腫瘍科 科長

研究要旨 本研究は、質的研究により、わが国のがん患者に生じる外傷後成長に関して、質的研究を行い、質問紙の項目を抽出することを目的としている。昨年度までの成果として、研究プロトコルを作成したうえで倫理審査委員会承認を受け、2013年1月に合計19例の症例を集積し、内容が飽和したために調査を終了した。本年度はインタビューの内容分析を行い、5テーマ、26カテゴリーを抽出した。内容は既存のPTGと異なり、がん特有、日本人特有のものが抽出された。

A. 研究目的

がん罹患はすなわち生命の危機を意味するため、破滅的な恐怖体験をもたらし、その結果として多くの患者がうつ病、適応障害などの精神疾患に罹患することが示され、がん罹患の精神心理面における負の側面が明らかにされてきた。一方で、危機的な状況に暴露されることによる精神心理面における正の側面として「危機的な出来事や困難な経験との精神的なもがき・闘いの結果生ずるポジティブな心理的変容の体験」と定義される、「外傷後成長 (Post Traumatic Growth, PTG)」が存在することが指摘されて、海外の研究においてがん患者においてもPTGが出現することが示唆されているが、日本人のがん患者におけるPTGに関しては、知見に乏しい。

そこで我々は質的研究により、わが国のがん患者に生じる外傷後成長に関して、質的研究を行い、質問紙の項目を抽出する。将来的には量的調査を行い、日本人のがん患者における外傷的成長の実態をあきらかにする。さらに、外傷的成長を促進する要因を明らかにした上で、介入法の開発までを行う予定である。

B. 研究方法

国立がん研究センター中央病院に通院中20名を対象とする。身体状態・精神状態が重篤であり、面接調査の実施が困難である患者、及び日本語の会話や読み書きに支障があり、面接調査の解析が困難であると調査者が判断した患者は除外する。「癌を体験した結果と

して、あなたの生き方や考え方に前向きな変化が生じることはありましたか？」という質問に始まるオープンエンドの面接調査を行い、結果は内容分析にて解析する。

（倫理面への配慮）

本研究は国立がん研究センター倫理審査委員会の承認をもとに開始された。対象者には書面での説明と同意を行った。

C. 研究結果

2013年1月に合計19例 症例集積し、内容が飽和したために終了した。内容分析の結果、次のとおり5テーマ、26カテゴリーを抽出した。

テーマ1 他者との関係

- 周りの人に支えられていることに気づいた
- 人の痛みや苦しみがわかるようになった
- 人の温かさに気づいた
- 相手の立場に立って考えられるようになった
- 人との絆を大切にするようになった

テーマ2 人生への感謝

- 一日一日を大切にするようになった
- 今までの人生を肯定的にとらえるようになった
- 生きていることに感謝するようになった
- 普通に生活できることが幸せだと感じるようになった

テーマ3 人間としての強さ

- ・ 生きることになった
- ・ 人の強さに気づいた
- ・ 人生に終わりがあることを受け入れられるようになった
- ・ 些細なことを気にしなくなった
- ・ 物事を前向きにとらえるようになった
- ・ 他人の評価を気にしなくなった
- ・ 自分の気持ちに素直になれた

テーマ4 新たな視点

- ・ 社会に貢献したいと考えようになった
- ・ 自分自身の理解が深まった
- ・ 生きがいについて考えるようになった
- ・ 人生において大切なことが変わった
- ・ 人生の終わり方について考えるようになった
- ・ 健康に気を配るようになった

テーマ5 精神的変容

- ・ 超越的な力を感じるようになった
- ・ 宗教への理解が深まった
- ・ 死後の世界について考えるようになった
- ・ 自然に対する感性が鋭敏になった

D. 考察

既存の PTG に比較して、今回はがん患者特有のカテゴリー、日本人特有のカテゴリーが明らかになった。

以下の2つは、苦しみを共有することによる、がん患者特有のカテゴリーであり、先行研究で示されている Compassion to Others という概念に一致すると考えられる。

- ・ 人の痛みや苦しみがわかるようになった
- ・ 相手の立場に立って考えられるようになった

以下の健康に対する配慮も、身体疾患独特の内容と考えられる。

- ・ 健康に気を配るようになった

また、がん体験に特有の継続する脅威・死に対する不安から生起するカテゴリーと考えられる。

- ・ 人生の終わり方について考えるようになった
- ・ 人生に終わりがあることを受け入れられるようになった

また、既存の PTG においては、「新たな可能性」というテーマが抽出されているが、日本人の場合は、東洋文化特有の相互協調的な自己観があり、下記のようにより内省的な内容が含まれている。よって、テーマ名も新たな可能性ではなく、「新たな視点」とした。

- ・ 自分自身の理解が深まった
- ・ 生きがいについて考えるようになった
- ・ 人生において大切なことが変わった

E. 結論

わが国のがん患者に生じる外傷後成長に関して、質的研究を行い、質問紙の項目となる26カテゴリーを抽出した。内容は、既存の PTG と異なり、がん特有、日本人特有のものが抽出された。

F. 健康危険情報

「特記すべきことなし。」

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Shimizu K, et al : Effects of Integrated Psychosocial Care for Distress in Cancer Patients. Jpn J Clin Oncol 43(5): 451-457, 2013

2. 学会発表

1. 清水研：精神腫瘍医の自身の経験を振り返って、第109回日本精神神経学会学術総会、福岡 2013.05 演者
2. Shimizu K : Clinical bio-psycho-social risk factors for depression in lung cancer patients : a comprehensive analysis using data from the Lung Cancer Database Project, 韓国心身医学会, 韓国, 2013.06
3. 清水研：うつ状態の早期発見、早期治療への取り組み、第10回日本うつ病学会総会、福岡、2013.07、演者
4. 清水研：精神腫瘍医が担っていく役割(精神症状のスクリーニングについて)、第26回日本サイコオンコロジー学会総会、大阪、2013.07
5. Shimizu K : Personality traits and coping styles explain anxiety in lung cancer patients to a greater extent than other factors, 15th IPOS, ロッテルダム, 2013.11

H.知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得

なし。

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

特記すべきことなし。